

どうきっこうじそうちょうきょう
銅亀甲地双鳥鏡

- ◇ 指定日 平成元年12月12日
- ◇ 所在地 川井
- ◇ 所有者 個人

銅亀甲地双鳥鏡は直径110mm、重さ311gの銅鏡です。銅鏡は祭祀や婚礼の際に使用されたとされ、片面を磨いて鏡とし、もう片面は装飾が施されています。

装飾されている面は外側に^{れんじゅもん}連珠文があり、その内側の全体に^{きっこうもん}亀甲文が施されています。

亀甲文の中には菊の花の模様が施文されており、中央には亀を模した紐を通すための亀鈕があります。

亀鈕の亀頭部分は点描で表現されており、亀頭と向かい合うように一對の雀が描かれています。

県内で見つかっている同様の銅鏡は、一對の雀が亀頭と向かい合わないため、この銅鏡の方が新しく、14世紀中頃～15世紀初めのものと考えられます。

